

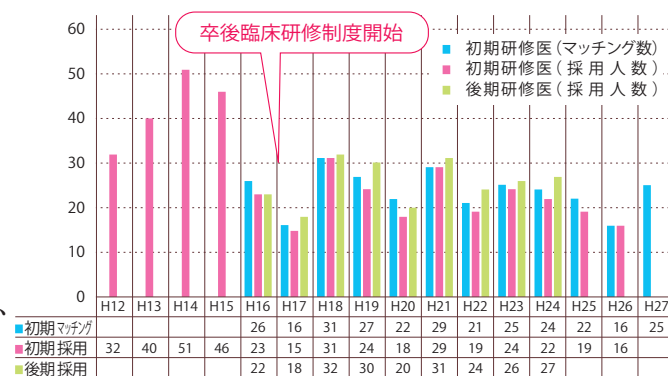


平成26年度医師臨床研修マッチング結果について

たなべ かずあき
卒後臨床研修センター長 田邊 一明

今年度の医師臨床研修マッチングの結果が10月23日に発表され、当院や県内臨床研修病院の定員95名に対して54名がマッチし、昨年より5名増加の結果でした。当院のプログラムでは大学病院2年間のプログラム、1年間大学病院・1年間臨床研修病院のたすきがけプログラム、総合診療プログラム、小児科、産婦人科、外科、麻酔科の各重点プログラム、合わせて定員48名に対して25名がマッチしました。昨年度が16名でしたので9名の増加となりました。

マッチング者数の推移



※後期研修医数は2年後の数字です
(例: 初期H16年度採用の場合は、後期はH18年度採用です)

Shimadaizm WG

おにがた かずみち
Shimadaizm WG 鬼形 和道

昨年度の初期臨床研修医のマッチング数の減少を受けて開催された会合で、積極的に意見をいただいたメンバーを中心にShimadaizm WGを立ち上げました。当院で後輩を育てる、島大らしい研修プログラムを作る、そして熱い思いで卒前卒後教育を考える、そんな気持ちを込めたWGです。この取り組みが、医学生、そして附属病院と医学部のスタッフに新しい風をもたらしたと思います。新たに迎え入れる25名の初期研修医を病院スタッフ全員で育ててゆきましょう。彼らの輝く姿こそが当院の研修プログラムのアピールとなり、そして当院の発展に繋がります。

原発災害に係る安定ヨウ素剤の適正使用

いのまた たいすけ
放射線腫瘍学 教授 猪俣 泰典

原発災害に伴う放射性ヨウ素(主にI-131)による甲状腺被曝を低減させる目的で安定ヨウ素剤の予防的服用が推奨されています。被曝24時間前から直後までに服用すれば90%は甲状腺に集積しますが、被曝8時間後であれば40%にまで減少します。3歳未満では粉末剤より調整した液状の安定ヨウ素剤を調剤後24時間以内に服用させる必要があります。3歳以上13歳未満ではヨウ化カリウムとして50mg(1丸)、13歳以上では100mg(2丸)を服用します。副作用は新生児甲状腺機能低下症が0.37%に見られたとする報告があります。他にアレルギー反応や甲状腺機能異常にも配慮する必要があります。

あいサポーター研修を行いました

あいサポート運動(障がい者サポート)とは、様々な障がいを正しく理解し、日常生活の中でちょっとした配慮を実践していく運動です。当院もこの運動に賛同し、平成26年10月22日、出雲市社会福祉協議会あいサポートメッセンジャーの大錦清文氏を講師に招き、あいサポーター研修会を開催しました。

研修会には教職員18名が参加し、障がいについて理解を深めました。受講後、障がいのある方が気軽に手助けをもとめていただけるよう「あいサポーターバッジ(写真)」の交付を受けました。

今後も、あいサポーターの輪を広げるため、今年度第2回目の研修会を2月に実施する予定です。



NEWS



CONTENTS

未来をカタチに

～フレキシブルなチームで支えるリハビリテーション～

リハビリテーション部 部長 馬庭 壮吉
療法士長 えぐさ のりまさ
江草 典政

平成26年度医師臨床研修マッチング結果について
原発災害に係る安定ヨウ素剤の適正使用
あいサポーター研修を行いました





未来をカタチに ～フレキシブルなチームで支えるリハビリテーション～

リハビリテーション部 部長 馬庭 壮吉
療法士長 江草 典政

「リハビリ」という言葉を聞くと対象疾患は、骨折などの運動器疾患や、脳卒中などがすぐに頭に浮かぶと思います。しかし、近年のリハビリテーション(リハビリ)はこれまでのイメージにある主要な疾患のみならず、多くの分野で有効性が認められています。当院は診療報酬制度において認められている主要なリハビリ施設基準の全てで、人員配置や施設整備の基準が最高ランクである「I」を取得しています。

対象は、①脳梗塞や脳出血などの脳血管疾患に対するリハビリ、②パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの神経難病に対するリハビリ、③骨折や人工関節、スポーツ障害に対するリハビリ、④肺がんや呼吸器疾患に対するリハビリ、⑤心筋梗塞や心臓術後に対するリハビリ、⑥がんや終末期医療に関連するリハビリまで多岐にわたります。

リハビリテーション部には、多くの専門スタッフが所属しています(表1)。

最近では、より高度になる専門分野に合わせて各学会認定資格や上位資格を取得できるよう、スタッフの育成に努めています。実際の患者さんの支援にあたっては、所属スタッフだけでなく主治医や病棟の看護師、医療ソーシャルワーカー、在宅医療を支援するスタッフと協力することが必須ですので、診療科や病棟とのカンファレンスを頻繁に行っています。

「リハビリテーション」は病院に入院したその日から開始される自宅復帰、職業・学業復帰、スポーツ復帰などに向けた全ての取り組みを意味します。筋力トレーニングや歩行練習などは運動療法のごく一部の方法に過ぎません。私たちは、患者さん個々の日常生活に合わせた生活機能訓練や職務復帰に向けたトレーニング、自宅環境の調整(住宅改修)、福祉用具の導入による生活支援、ご家族への介助指導までリハビリに必要な全ての過程において患者さんをサポートする体制を整えています。

リハビリは、現在ほぼ全ての診療科の患者さんを対象としています。現在、入院・外来合わせて1日に150人もの患者さんがリハビリ室や病棟でのリハビリに取り組まれています。患者さんを支えるリハビリ専門スタッフも整備されつつあり、特殊で専門的な分野を担当できるスタッフも育成しています。

問合せ先 リハビリテーション部 TEL 0853-20-2457



表1

● リハビリテーション部所属スタッフ

職種	人数
リハビリテーション科専門医	3名
専任看護師	1名
理学療法士	10名
理学療法技術職員	1名
作業療法士	5名
言語聴覚士	3名
専門事務職員	1名
合計	24名

平成27年度に理学療法士3名、作業療法士1名が新たに加わり、機能強化される予定です。

リハビリの稼働状況

リハビリの対象領域の拡大に伴い、患者数は年々増加しています(図1)。今年度の新規紹介患者数は3,000人を突破する見込みです。1年間の延べ患者数はおよそ33,000人、実施単位数(1単位:20分)は、52,000単位にのびます。これは、1人の患者さんに対して1日最低30分の療法時間を確保している計算になります。まだまだ十分とは言えない状況ですので、今後人員を整備し十分な療法時間が提供できるように準備して参ります。疾患系統別では、脳卒中、神経難病などの中枢神経系や運動器疾患が約7割を占めます。近年では、心臓リハビリや術前後の呼吸リハビリ、がんのリハビリなどが急増しています。(図2)

図1

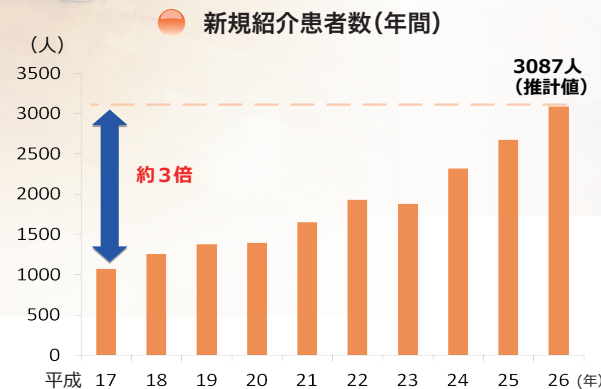
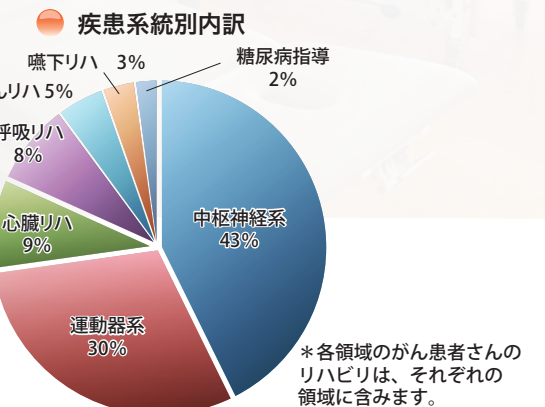


図2



最新のリハビリトピックス

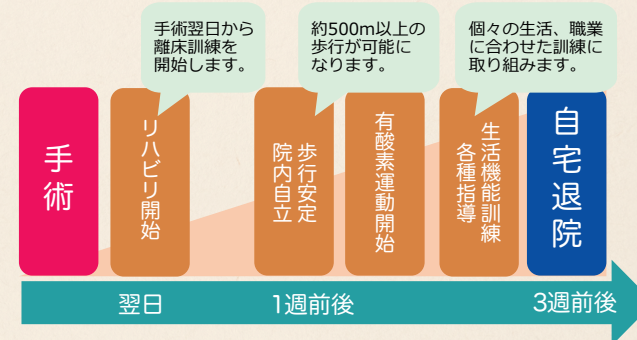
最新のリハビリトピックス①

心臓リハビリテーション

平成24年から循環器内科、心臓血管外科と協力し心臓リハビリテーション(心リハ)を開始しました。県内でもまだ本格導入している施設はほとんどなく、心リハの専門知識を備えた心臓リハビリテーション指導士は県内に4名しかいません(うち2名が当院所属)。心リハでは、リスク管理の下、循環器疾患や心臓術後のリハビリを早期から実施し、心臓術後であっても術後2～3週間でウォーキングができる身体機能まで改善できるようになりました。(図3)

図3

● 心臓リハビリの流れ【心臓術後の一例】



最新のリハビリトピックス②

スポーツリハビリテーション

整形外科では多くのスポーツ障害に対する治療を行っております。治療法は保存療法から手術療法まで多岐にわたりますが、多くの患者さんにとって手術後のスポーツ復帰までの道のりは平坦ではありません。怪我や手術によるパフォーマンスの低下は選手生命にも関わる問題であり、術後のリハビリが重要です。

当院では術後のリハビリに加え、より高いレベルでのスポーツ復帰を目標に平成26年4月より「スポーツリハビリテーション外来」を開設しました。膝前十字靱帯損傷などの重点疾患については受付時間を拡大し、学校の授業の後や仕事の後に来院いただけるように体制を整えました。対象者は当院の整形外科を受診されており手術療法を予定されている方、またその術後の方としています。ご希望の方は整形外科を受診ください。





島大病院ニュース
2014年12月

お知らせ



年末の業務体制について

当院は、本年度の年末年始の休業期間中【平成26年12月27日(土)～平成27年1月4日(日)】は休診とし外来診療を行いませんが、下表に掲げました部署につきましては、年末は表に記載のとおり診療しますのでお知らせします。

部署 \ 月日	12月27日 (土)	12月28日 (日)	12月29日 (月)	12月30日 (火)	12月31日 (水)
放射線治療科		← 放射線治療（照射業務）を実施 →			
外来化学療法室	休診	休診	休診	9:00～15:00 予約のみ	休診
手術部	← 予定手術対応 →		← 緊急手術対応 →		
放射線部 (血管業務)	休診	休診	休診	(AM)Shurt PTAの予備日	休診
リハビリテーション部	入院患者さん のみ実施	休診	入院患者さん のみ実施	入院患者さん のみ実施	休診

- 上表以外の部署においても、宿日直体制等により対応させていただくよう体制を整えています。
- 緊急の場合は、救命救急センターで診療を行っています。





島大病院ニュース
2014年12月

お知らせ

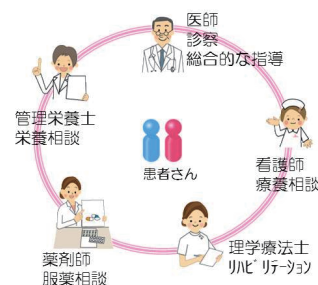
糖尿病診療の新しい取り組みを開始しました

内分泌代謝内科 診療科長 **すぎもと としつぐ** 杉本 利嗣
助教 **もりた みわ** 守田 美和

当院では糖尿病ケアサポート委員会を中心とし、チーム医療に力を入れております。この委員会は、内分泌代謝内科、小児科、腎臓内科、眼科、歯科、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、歯科衛生士で構成され、糖尿病診療や様々な教育・啓発活動に取り組んでおります。

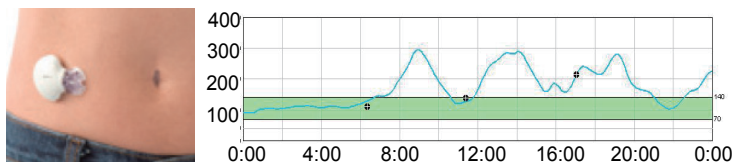
【糖尿病透析予防指導】

外来にて医師（内分泌代謝内科が中心となり、腎臓内科、泌尿器科）、看護師、管理栄養士（必要に応じて理学療法士、薬剤師）が同日に腎症に対する診療および指導を行うことでより効果的な治療が可能となりました。理学療法士や薬剤師を外来にて介入可能とした点は全国でも珍しく特徴的です。このたびシステムが整い、患者さんの紹介をお受けすることが可能となりました。



【持続血糖測定検査（CGM）】

新しく、外来検査枠を開設しました。1日4回の血糖自己測定で6日間連続した1日288回分の血糖記録が可能であり、特に夜間低血糖・無自覚性低血糖が疑われる方、血糖変動を確認したい方にはお勧めです。内分泌代謝内科または小児科へご紹介ください。



【糖尿病パス入院】

この度、糖尿病パス入院をリニューアルしました。6日間（月曜日入院、土曜日退院）で糖尿病教育、治療評価、合併症評価を行いますので、ご活用ください。

上記の適応等につきましては、リーフレットを準備しておりますので、お問い合わせください。

問合せ先 内分泌代謝内科 TEL:0853-20-2183



お知らせ

島大病院ニュース

平成26年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

